

ブリタニカ・オンライン・ジャパンを使ってみよう【その1】

～ ひとつのキーワードから広がる知の世界 ～

ブリタニカ・ジャパン株式会社

ブリタニカ・オンライン・ジャパン(以下 BOLJ)は、日本語の『ブリタニカ国際大百科事典』と英語の *Encyclopædia Britannica®*をベースとした知のポータルサイトです。ちょっとした疑問を持ったとき、本格的に調べ物をしたいとき、レポートのテーマを考えると、まずはBOLJにアクセスしてください。GoogleやYahoo!で検索するのとは異なる確かな情報の世界があなたの前に広がります。今回から2回にわたり、その例をご紹介します。

第1回の検索テーマは、

「オーロラにまつわる科学的事項や、文化的にどのように取り上げられてきたかを知りたい」です。

◆まずは検索

BOLJ の使い方はとても簡単。トップページの項目名検索欄にキーワードを入力するだけです。16万件近い項目から検索を行うわけですからそれでも十分な結果が得られますが、余裕があるときは、さらに条件検索(*1)にもチャレンジしてみましょう。条件検索では AND/OR、分野指定といった条件を使って全文検索を行います。条件検索で分野を特定せず「オーロラ」で検索すると、小項目事典で 33 件、大項目事典で 36 件(17 項目)、国際年鑑で 6 件の記事がヒットします(*2)。

◎概要をつかむには小項目事典

小項目事典「オーロラ」の記事は 300 字ほどの長さ。美しい写真とともに簡潔な説明がなされています。記事の下にあるダイレクトリンク(*3)を使って英語の百科事典 *Encyclopædia Britannica* の「aurora」に移動すると論理的で洗練された英語で書かれた記事や写真、図を閲覧できます。

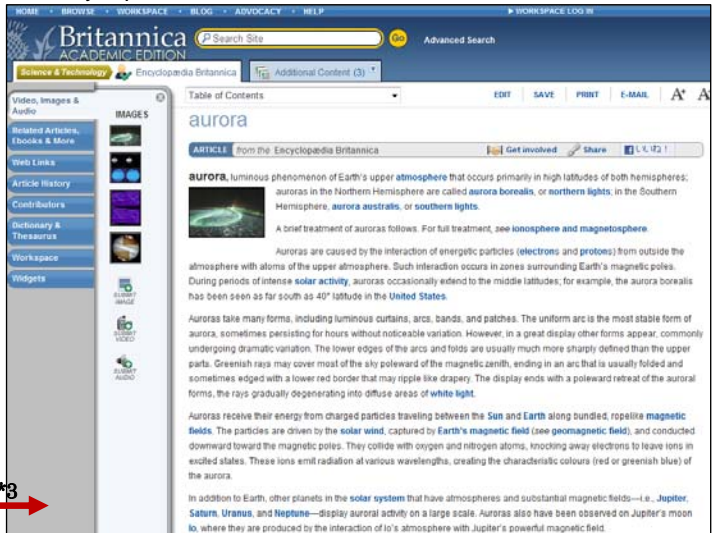
▼小項目事典『オーロラ』の記事



▼ブリタニカ・オンライン・ジャパンのトップページと検索結果



▼Encyclopædia Britannica『aurora』の記事



◎大項目事典をじっくり読む

検索結果のページに戻って左側の大項目事典をクリックし、そこから大項目事典の「オーロラ」の記事も読んでみましょう。大項目事典では 19 ページ(*4)に渡りオーロラという現象が起こる仕組みや人間とのかかわりなどについて体系的に説明しています。目次(*5)が用意されていますので、必要な部分だけ拾い読みすることも可能です。また、オーロラの全体像や北海道で観測されたものを含む 17 点の写真や図も閲覧できます。

◎オーロラ以外の項目もチェック

オーロラに関する情報に幅広くふれるには、小項目事典「極軌道」、「バンアレン帯」など科学用語の記事、あるいはオーロラの美しさに魅せられるなどして研究を進めた偉大な学者「アルバーン」、「セルシウス」*(下記コラム参照)の記事も読んでみましょう。これら関連項目の記事に簡単にたどりつけるのは、書籍にはなかった本文検索の利点です。大項目事典「大気光学」ではオーロラは虹や蜃気楼の光学現象とは明らかに異なるものであることが記されています。同じく大項目事典には「キャベンディッシュ」、「ドールトン」、「ラボアジエ」といった、オーロラに関する研究を行った科学者の記事があり、彼らの生涯と業績を知ることができます。

◎国際年鑑で今の動きをキャッチ

検索結果ページに戻って国際年鑑の記事も見てみましょう。2006 年の国際年鑑の記事「宇宙探査／日本の宇宙開発」には日本がオーロラの微細構造の観測に乗り出していることが書かれています。

◆芸術作品や伝説の世界へ

オーロラという現象について理解したところで、今度はオーロラにまつわる芸術作品や伝説を見てみましょう。検索結果ページに戻って、小項目事典「ゲルチーノ」の記事を開きます。

▼大項目事典『オーロラ』の記事と写真



ちょっと
より道

セルシウス

オーロラとゆかりの深いスウェーデンの天文学者セルシウス。43 年にも満たない短い人生の中で、17 年間にわたるオーロラ観測の他、多くの偉業を成し遂げました。小項目事典ではそんな彼の業績をわかりやすくコンパクトにまとめています。

記事の最後には「水の氷点を 100 度、沸点を 0 度としてその間を 100 等分する温度目盛りを提唱し、翌年入替えて氷点を 0 度とした。のちに百分度目盛り Centigrade(日本では摂氏目盛り)と呼ばれるようになった。」とあります。日本ではそれほど知名度が高くない人物ですが、彼の業績は私たちの生活に密着したところで今も息づいていることがわかります。

セルシウス

セルシウス
Celsius, Anders



セルシウス (作者不詳、挿画)。
部分、複製版) Archiv für Kunst und Geschichte, Berlin

[生] 1701.11.27. ウプサラ
[没] 1744.4.25. ウプサラ
スウェーデンの天文学者。学者一家に生れ、ウプサラ大学教授 (1730~44)。1733年に、16~32 年にわたるオーロラ観測の結果を発表。地球の形をめぐる論争に決着をつけるため、子午線の弧の長さを測定することを主張し、みずからラップランド探検隊に参加 (1736)。このときの結果はニュートンらの地球扁平説を支持するものであった。40年ウプサラ天文台を設立、台長となる。42年、水の氷点を 100度、沸点を0度としてその間を 100等分する温度目盛りを提唱し、翌年入替えて氷点を0度とした。のちに百分度目盛り Centigrade (日本では摂氏目盛り) と呼ばれるようになった。

■ 小項目事典



ブリタニカ・オンラインの 関連項目へ

◎芸術作品 ～ゲルチーノ、フォンティン、プリセツカヤ～

オーロラに魅せられ、カジノ・ルドビージのフレスコ天井画『オーロラ』を描いた「ゲルチーノ」。実はゲルチーノというのは通称だったことがわかります。他にも小項目事典にはバレエの題材であるオーロラ姫を踊ったバレリーナの「フォンティン」、「プリセツカヤ」の記事もあります。

◎スラブや中国の神話との幻想的なかわり

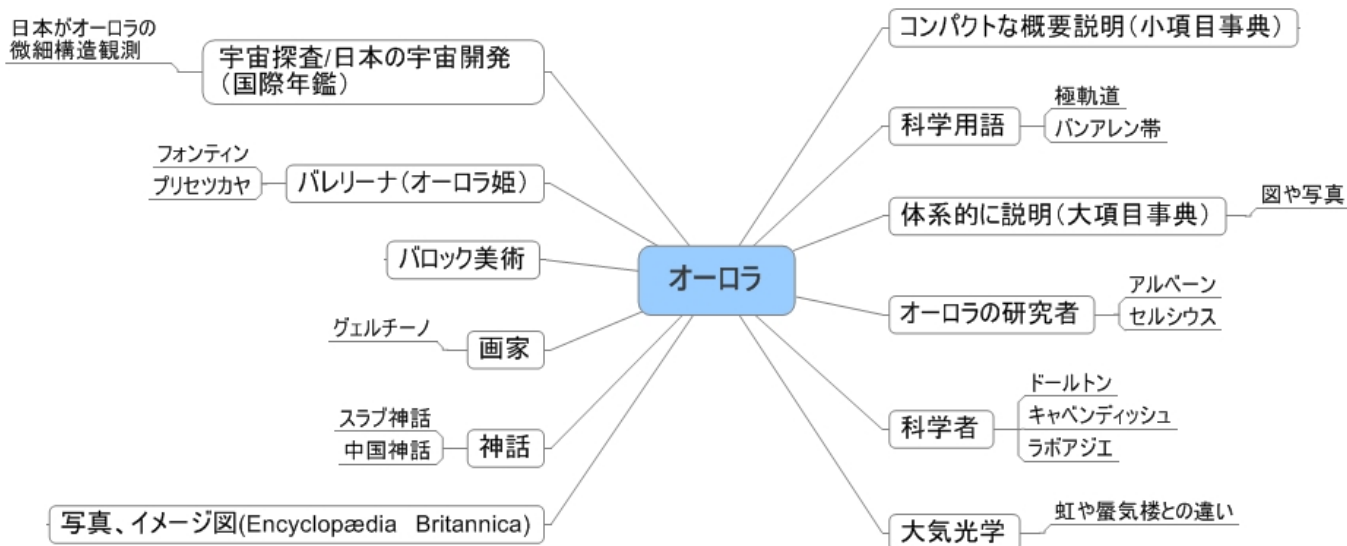
大項目事典「スラブ神話／神話の構造」には、セルビアには太陽に仕える 2 人の美しい乙女である朝のオーロラと晩のオーロラが出てくる神話があること、また別の神話では、朝、昼、晩の三つのオーロラが小熊座に鎖でつながれた 1 匹のイヌを監視するが、このイヌが解き放たれると世界は終焉するとされたので、この三つのオーロラは世界守護の 3 女神となったことが書かれています。一方、「中国神話／竜」を読むと『山海経』に出てくる燭竜はオーロラを神格化したものではないかという説があることがわかります。

▼小項目事典『ゲルチーノ』の記事



◆百科事典ならではの広がり

以上、オーロラというキーワードから思いがけずさまざまな分野の記事にふれることができました。気の向くままにいろいろな記事を手軽に読むことができるのはオンラインの良いところです。次回はまた別のテーマでブリタニカの世界をご紹介します。



◆無料トライアル承り中！

ブリタニカ・ジャパンでは、ブリタニカ・オンライン・ジャパンの全機能を1ヶ月間無料でご利用になれる無料トライアルを受け付けています。実際にお試しになって、その魅力を実感してください。

ブリタニカ・オンライン・ジャパンに関するお申し込み、お問合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 電子商品営業部 (電話:03-6910-0518、ファクス:03-6420-1356、e-mail:online@kinokuniya.co.jp) までお願い致します。

*お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaiyo6.htm に則り、取り扱わせて頂きます。